

# 生活知恵袋

せいかつちえぶくろ

Vol. 112

## 今月のテーマ 忘れかけたものを思い出す

先月号で某読者から「最近の内容は難しくなった」とお叱りを受けたということに触れたが、改めて考えてみても自分では難しくしている認識がないと言われたものだから、正直言ってドキッとした。往々にして、自分のことはよく見えないもので、まさに「灯台下暗し」なのである。

では、今と昔の原稿では何が変わったのだろうか？9年前と比較すると文字数は格段に多くなっている。いざ書き始めると、「これも伝えたい」、「あれも伝えたい」と、頭の中に溢れだしてきて、つつい文字数が多くなってしまふのだ。それでなくても時間が足りないのに、自分で首を絞めている次第だ。文字数(原稿の長さ)はともかく、いくら想いがあっても、それが難しく伝わりにくくなっているのは本末転倒であり、筆者の本望とするところではない。もしかしたら想いが先行しすぎて、少し欲張り(詰め込み)すぎたのかもしれないなあ。

かつての齋藤少年は、夏休みの作文や感想文は大の苦手で、規定の原稿用紙の枚数を稼ぐために、「どうぞまますか」ばかりを考えていたような気がする。何がどう変わってしまったのか信じられない限りだ…。私の仕事に対する信条の一つに、「迷ったり、分からなくなったらお客様に聞け」という言葉があるが、この度の事は迷いがあった訳ではないだけに始末が悪い。しかし、読者から指摘をいただいたのは、実にありがたいことであり、やっぱり「お客様は神様」だ。私自身も何かに気付いて、それを相手側が気付いていない場合は、教えてあげた方が親切とばかりに指摘することがある。それは、その相手側が大切な方であればあるほど、なおさらである。それを思えば何と有難いことか、「感謝感謝」。

少し横道に逸れた感があるので元に戻そう。何が難しくなっているのか！？分かった！当初の原稿はそれぞれの家庭が抱える素朴な疑問や問題を取り上げていたが、回を重ねるごとにその次へ次へと、その先にある問題へと移り変わっていたようだ。変わってないのは私の写真だけで9年前からそのままだ。でも、気持ちは当時と変わっていないので写真は永遠にこのままで行くこととする。でも、中身は変えなければならぬか…。



### ●金農野球部準優勝おめでとう

秋田県全体が、いや日本全体がこれ程燃えたことがかつてあっただろうか？皆さん心当たりがありますか？もしかしたら「真紅の優勝旗」が「白河の関」を超えるのかもしれないとの期待に東北全体が沸き立った。また金足農業高校の戦いそのものが感動を呼び、日本中多くの人をも味方に付けてしまった。金額の問題ではないものの、資金が足りないとの報道がされるや否や、あれよあれよという間に2億円にも上る寄付が集まった。結果は準優勝であったものの、人々の心に残ったものは優勝に匹敵する。生まれた子ブタのナイン(9匹の子ブタ)までが紹介されたのには驚いた。メディアが取り上げたのも、優勝チームが成し遂げた偉業も然ることながら、単に準優勝という活躍のみならず、金農チームそのものであった。

それが何か関係があるかって…？関係あるんです。金農の活躍は、今回のテーマ同様「忘れられていたものを思い出させてくれた」のです。本来の高校野球はどういうものであったか、どうあるべきかを改めて考えさせられ、原点を思い出させてくれた。金農ナインは、農業高校であることにちなんで例えると、まさに「地産地消」。真正銘の秋田県代表であり、忘れかけていた高校野球の象徴とも言えるのかもしれない。真紅の優勝旗は白河の関を超えることは出来なかったが、高校野球の原点は秋田にあったと言っても良いのかもしれない。私も、原点を振りかえろうと思えますし、皆さんも家計



齋藤廣勝(さいとう ひろかず)  
株式会社トータルライフサポート代表取締役  
・CFP®ローティファイドファイナンシャルプランナー  
・1級ファイナンシャルプランニング技能士  
・日本商工会議所 年金・退職金等認定講師  
・住宅ローンアドバイザー  
・金融広報アドバイザー

## 保険と暮らしの相談センター

### “ご加入中の火災保険は大丈夫!?”

近年、局地的な豪雨や落雷、竜巻、異常な大雪などにより家屋や家財の損害が増えています。現在ご加入中の火災保険でしっかり対応できますか？ぜひ補償内容をチェックしてみましょう!!

お気軽にご相談ください。

**株式会社 トータルライフサポート**

〒010-0916 秋田市泉北3丁目17-22

●営業時間/9:30~18:30  
(土・日・祝日は9:30~17:00)

●定休日/水曜日

**TEL 018-827-7611**

FAX 018-827-7610

URL <http://tls-akita.co.jp>

●紳士服のコナカ  
●すずきクリニック  
●マクナダルド  
●かんきょう

●洋服の青山

詳細はホームページでもご覧いただけます。

全般に目配せをし、忘れられていたものを思い出そうじやありませんか。時代は、日々進歩し経済環境も大きく変わってきているが、忘れてはいけないもの、原点復帰することの必要性を、改めて一緒に考えてみよう。

### ● 時とともに忘れられるもの

私が書いたコラムの内容が、難しさを感じさせてしまったのが事実であるとすれば、書いた本人にそういう思いがなかったとしても弁解は成り立たない。何故なら、私の手元を離れた瞬間から、私のものではなく読者のものだからだ。読者の皆さんがそれを見て、感じたことや思ったことが100%であり、それ以上でもなく以下でもない。筆者の思いとは関係なしに…。その感じ方は、それぞれ違って当たり前だ。何故なら言語は不完全なのである。しかし不完全はいい意味でもある。如何に伝えるか、詩や歌の歌詞もその書き手は言語が不完全であることを、意識するとしなずに拘わらず、ある程度知っている。書く側、伝える側はそこを分かった上で、自身の思いが全ての人に伝わるように、言葉を選び、言いまわしを変えたり、たとえ話を引用したり、工夫して書かなければならないのである。あらっ！また理屈っぽい講釈を垂れるような言い方になってしまった…。

ならば、誰にでも心当たりのあることを例にあげてみよう。この世は男と女、異性に恋心を抱くのは自然の摂理で、自分の想いを伝えるために、言葉や態度を始め、プレゼントを贈るなど手を変え品を変え、様々な努力をする。どなたも大なり小なり心あたりはある筈だ。要するに想いというのは、言葉だけでストレートに伝わらない。想いの100%を言語で表現することは不可能だからだ。相手に伝わらない想いを、俺は(私は)こんなに想っているのに“とか、そんなつもりで言ったのではないのに”とか言ってもどうしようもないのである。そう、口から放たれたとたんに、あなたの言葉(想い)はあなたのものではなく、相手が感じたようにしかならないのである。皆さんも一緒に反省しましょう。(俺だけかな…)

特に、釣った魚に餌はやらないかの如く、いたわりの言葉や感謝の言葉を忘れてしまっている方はいませんか…。せめて言葉にしなければ伝わらないが、どうしても言葉に出来ない人は、シャネルのバックを買ってあげるとか、アルマーニのスーツを買ってあげるとか…。さてどっちにする？方法は別にしても、想いを伝えること、伝えなければならぬこと、いつの間にか忘れられていたことを考えてみようではないか。恋人同士も、夫婦も、親子も、友達も、職場の同僚にも、みんな同じことが言えるのではないだろうか。

### ● 何故忘れられていくのか

長い年月が経過していく中で、風化するかの如く少しずつ忘れられていくことは、ごく普通にみられる。大災害がもたらした被害や悲惨な戦争の記憶などがそれだ。二度と繰り返さないためにも忘れてはならないもので、風化させないよう伝え続ける努力をしている方もいる。

一方で、一定時期を境に急速に忘れ去られていくものもある。特定の目的・目標が達成されたとなんあれよあれよという間に忘れ去られてしまうものだ。資格を取るためや目的の学校に入るために猛勉強していたのが、合格するや否やそれっきりになったりする。また、高額な商品を購入するために節約をしてコツコツと積立をしようやく手に入った瞬間、その努力も忘れてしまったりする。何故に忘れられるのか？そこまでの努力は通過点で、本来の努力はそこから先なのに、そこがゴールであるかのように勘違いしてしまいがちだ。

本来の目的や目標は見失ってはならない。忘れてはならないものが、様々な場面に潜んでいる気がするのだが、皆さんは如何思われるだろうか。

### ● 思いつくことはついで

今月の生活知恵袋の内容は何なんだと、これまたお叱りを受けそうだが、この際それを恐れずに脱線してみよう。忘れられていそうなことを思いつぎのまま挙げてみた。

純粹だった少年少女の心、夫婦の結婚当初の心、親兄弟からの愛情、受けた恩、かつての体型や脂肪、

失われてしまった自然環境、先に書いた「金足農高」が思い出させてくれたことなど、挙げだしたらきりがない。恩に関しては、一躍時の人となった尾島春夫さん(スーパーボランティア)の語録に「かけた情けは水に流せ、受けた恩は石に刻め」という言葉があった。多くのことは語らなくても、この言葉だけで尾島さんの人柄と、ボランティア精神が伝わってくる一文だ。私も、難しくなった“などと言われているうちは、まだまだ未熟者なのである。ただ、少年の心だけは持ち合わせているつもりだったが、私の悪友には“ただ大人になっていないだけ”と言われてしまった…。

### ● 忘れられかけている家計の基本

ようやく「生活知恵袋的」になってきたが、ここで取り上げるのは「袋分け」と「積立て」だ。貯蓄の基本の積立、かつては「積立定期預金」の利用者が実に多かった。しかし、家計相談の際にふと気づいたのだが、近年「積立定期預金」の利用者は激減しているように思えるがどうしたものか？

かつて、カードローン・キャッシング・リボ払いなど金融がそんなに発達していなかった頃は、必要なものや欲しいものを手に入れるには必要な金額になるまでコツコツと積立てをするのが普通であった。皆さんにも覚えはないだろうか…。貯めてから買うことが当たり前だったが、今はどうだろうか…。以前に“ない袖を振ってしまっ”という表現をしたことがあったが、金融の発達でお金が無くても、とりあえず欲しいものを手に入れてしまっようようになった。“買ってから払う”という訳だ。その悪循環が積立をして貯めてから買うという構図を壊してしまっているような気さえる。カードローンやキャッシングを全否定するつもりはないが、その仕組みをわきまえて賢く使えばの話だ。緊急時などの一時的な資金の必要性があった時などは、使い勝手が良いこともある。でも、基本的には貯めてから買うのが基本であり、目的に合わせた「積立定期預金」の利用を強くお勧めしたい。

### ● 来月号は

…来月に考えます。